

# 感染性胃腸炎

ほけせん便り 198号  
保健管理センター  
学校医 山内康宏  
2019年12月

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌等の病原微生物による感染症です。主に冬季に流行する事が多く、「ノロウイルス」や「ロタウイルス」等が原因となることが多いです。主な症状は、腹痛・下痢・嘔吐・発熱等ですが、時に腹痛・頭痛・悪寒・筋痛・倦怠感等を伴う事もあります。

ノロウイルスは潜伏期は1-2日で、ヒトへの感染経路は主に経口感染です。感染者の吐物・糞便やこれらに直接あるいは間接的に汚染された物品類からや、汚染されたカキや2枚貝等の生あるいは加熱不十分な調理による食事による感染とされています。一般に加熱した食品であればウイルスは完全失活するので問題ありませんが、汚染された貝類を調理した手や包丁・まな板等を使用した生食用の食材やサラダ等の加熱調理しない食品もからも感染する可能性があります。

感染防止策としては、調理や食事の前や、トイレの後に石鹼と流水による十分な手洗いが重要です。また、2枚貝を調理する際には、十分に火を通して調理する(85度以上で1分以上加熱する)ことが重要です。

治療としては、ノロウイルスの増殖を抑えるような薬剤は無く、整腸剤・吐き気止め・解熱剤などでの症状を軽減する治療となります。

何か気がかりな点などありましたら、保健管理センターまでご相談ください。

## ノロウイルスの感染経路

